191.4/27 朝日

チェルノブイリ被ばくの子ら救おう

秋田でオークション

あす まで 白ロシアへ医療機材援助

チェルノブイリ原発事故で被ばくしたり、血友病となった、ソ連・白ロシア共和国の子どもたちを救うためのチャリティー・オークションが二十六日、秋田市寺内の「ビッグスペース日の出特設会場」で、三日間の日程で始まった。今回のイベントは、日本ユニセフ協会秋田友の会などの主催で、同オークションの収益金は、同共和国で不足している医療機材購入資にあてられる。

会場では、メーカーから原価で提供してもらった自転車や、古着、ワイングラス、スピーカーなどの生活用品約六百点が用意され、期間中、毎日数回オークションが行われている。また、品物の受け付けも二十七日まで行われる。

これまでに、各種団体から寄せられた支援金が約五百万円あり、今回の収益金とあわせて、同会では、注射器や注射針、手術用手袋、血液バッグなど計三万点を同共和国へ送る予定だ。

同会代表の佐々木正光さんは「白ロシアには、血友病の子どもたちが約七十人おり、また被ばくした子どもたちも多い。しかし、聞くところによると、医療機材がほとんどない。ぜひ協力してほしい」と話している。

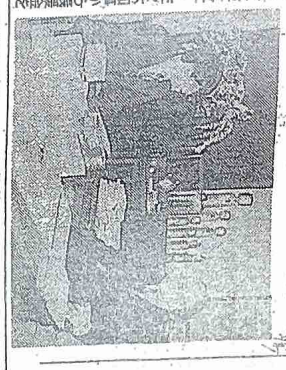
自転車などの生活用品が並べられているオークション会場＝秋田市寺内で

患者支援に150万円

県職員が募金を寄付

チェルノブイリ原発事故

白ロシア（旧ソ連）・秋田三日、白ロシア共和国の患者支援募金を呼びかけ、県職員が募金を寄付した。



佐々木知事から募金を受け取る佐々木代表（左）

白ロシアに医療器具を

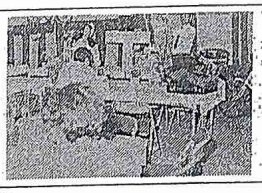
秋田市 あす まで オークション

チェルノブイリ原発事故の影響といわれるソ連・白ロシア共和国の白血病や血友病の子供たちを救おうと、白ロシアリーフチャリティーオークションが二十六日から三日間、秋田市寺内神屋敷の特設会場で開かれている。

白ロシアの子供たちに医療器具を送る運動を推進している日本ユニセフ協会秋田友の会（佐々木正光代表）が中心になって企画した。

市民や企業から寄せられた自転車、家庭用品、日用雑貨など約二百点が競り落とされていった。

二十七、二十八日も午前九時から同会場（ビッグスペース日の出）で開かれる。益金は医療器具の購入に充てられる。



白ロシアに医療器具を――と開かれたチャリティーオークション

No.79